

寒い北ヨーロッパには昔から「蚤の芸」という見世物があるのだそうです。

あの小さな蚤がレンズのガラス箱のなかで、音楽にあわせてダンスを踊ったり、ときには車を引いたりいろいろな曲芸をするのだそうです。

蚤は元来、自分の体の百倍もの高さに飛び跳ねる能力をもった生き物です。その飛び跳ねる力を、長い間の訓練調教によって忘れさせ、飛ばない蚤をつくるのがこの曲芸を仕立てる最初の条件だと申します。

蚤をガラス箱に入れて、その底から刺激をあたえます。蚤は当然瞬間に飛び上ります。飛び上かったとたんイヤといふほどガラスの天井に頭をぶつけます。

これを何回も何回もくりかえすなかで、しまいには、飛んでもだめだ飛ばないほうが賢いのだと知り、もうどんなことがあっても飛ばない蚤になってしまふのです。

これは蚤の曲芸のはなしですが、なんだか人事でなく身につまされるような思いになるのは私ひとりでしようか。

大正デモクラシーなどといって、また昭和の七年ぐらいまでは自由に飛んだりものが言いました。ところがいつやらほどから教育勅語・治安維持法というガラス箱に閉じ込められて、飛べない、もの言えないことになってしまった。

蚤（ノコギ）の曲芸

あの小さな蚤がレンズのガラス箱のなかで、音楽にあわせてダンスを踊ったり、ときには車を引いたりいろいろな曲芸をするのだそうです。

蚤は元来、自分の体の百倍もの高さに飛び跳ねる能力をもった生き物です。その飛び跳ねる力を、長い間の訓練調教によって忘れさせ、飛ばない蚤をつくるのがこの曲芸を仕立てる最初の条件だと申します。

蚤をガラス箱に入れて、その底から刺激をあたえます。蚤は当然瞬間に飛び上ります。飛び上かったとたんイヤといふほどガラスの天井に頭をぶつけます。

これを何回も何回もくりかえすなかで、しまいには、飛んでもだめだ飛ばないほうが賢いのだと知り、もうどんなことがあっても飛ばない蚤になってしまふのです。

これは蚤の曲芸のはなしですが、なんだか人事でなく身につまされるような思いになるのは私ひとりでしようか。

大正デモクラシーなどといって、また昭和の七年ぐらいまでは自由に飛んだりものが言いました。ところがいつやらほどから教育勅語・治安維持法というガラス箱に閉じ込められて、飛べない、もの言えないことになってしまった。

蚤（ノコギ）の曲芸

寒い北ヨーロッパには昔から「蚤の芸」という見世物があるのだそうです。

あの小さな蚤がレンズのガラス箱のなかで、音楽にあわせてダンスを踊ったり、ときには車を引いたりいろいろな曲芸をするのだそうです。

蚤は元来、自分の体の百倍もの高さに飛び跳ねる能力をもった生き物です。その飛び跳ねる力を、長い間の訓練調教によって忘れさせ、飛ばない蚤をつくるのがこの曲芸を仕立てる最初の条件だと申します。

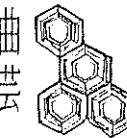
蚤をガラス箱に入れて、その底から刺激をあたえます。蚤は当然瞬間に飛び上ります。飛び上かったとたんイヤといふほどガラスの天井に頭をぶつけます。

これを何回も何回もくりかえすなかで、しまいには、飛んでもだめだ飛ばないほうが賢いのだと知り、もうどんなことがあっても飛ばない蚤になってしまふのです。

これは蚤の曲芸のはなしですが、なんだか人事でなく身につまされるような思いになるのは私ひとりでしようか。

大正デモクラシーなどといって、また昭和の七年ぐらいまでは自由に飛んだりものが言いました。ところがいつやらほどから教育勅語・治安維持法というガラス箱に閉じ込められて、飛べない、もの言えないことになってしまった。

情林寺奇跡



情林寺奇跡

どうせ飛んでもダメだ、飛ばないほうが賢いのだと、金輪際飛ばない「忠良の国民」に教育・調教されて仕舞いました。自分自身飛ばない蚤になりきつて、得意満面やつた曲芸があの聖戦という名の残酷な十五年戦争であったのです。

蚤でなくとも私たち、知らない間にいろいろなガラスの覆いをかぶったりかぶせられたり。本当の自分の姿さえ見えないまま、とんでもない誤った生き方をするのも知れません。

今もしているのかも知れません。蚤でなくとも私たち、知らない間にいろいろなガラスの覆いをかぶったりかぶせられたり。本当の自分の姿さえ見えないまま、とんでもない誤った生き方をするのではありませんかと思うとき、まさに悲しい

出石組 戰没者
追悼法要ご案内

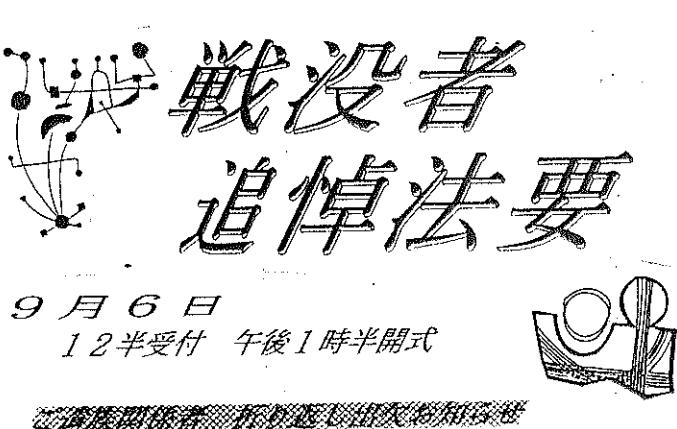
千万の命の上に築かれし
平らけさせを生くる悲しき

九月のこよみ

- 四日 仏壯但馬ブロック研修会
五日 谷垣茂氏宅法事
六日 出石組寺族同朋研修会
七日 玉日会定例法座
八日 田中重雄氏宅法事
九日 湯口長一氏宅法事
十日 田中重雄氏宅法事
十一日 敬老の日
十二日 田中重雄氏宅法事
十三日 森井治郎氏宅法事
十四日 宮嶋哲也氏宅法事
十五日 敬老の日
十六日 夜会定例法座
十七日 寺区区民のつどい
十八日 九州行橋市傳因寺彼岸会
十九日 同じ
二十日 加古川西山真澄氏宅法事
二十一日 彼岸中日
二十二日 彼岸中日
二十三日 彼岸中日
二十四日 真覚寺彼岸法座
二十五日 二六日 彼岸出石会法座
二七日 (みのりを聞く会合同)
二八日 中川信氏宅報恩講
二九日 大阪教区石川北組研修会
三十日 大阪教区僧侶研修会

出石組

戦没者追悼法要



9月6日
12半受付 午後1時半開式

ご遺族関係者の皆様

出石町寺町

正福寺にて

浄土真宗本願寺派

兵庫教区出石

九月六日 (日)
午後一時半

葬儀

八月十一日 口小谷

宮嶋かの様





親に会う

だれにでも親はあります。親はだれにでもありますか、しかし、だれもが親を知っているとは限りません。

（親を知る）ということについて。

「それは親という字をみればわかる」我が身の危険を顧みず危ない木のうえに立つて、いつでも子供を見守っている。そういうものが親というものと知ること。それが親を知ると言うことだということです。

なるほどそんな解釈もあるかも知れぬが、それはただ頭の中で考え出した横着な理屈。親の有り難さは、自分が一生苦労して暮らしてみて、はじめて親の苦労も偲ばれるというもの。「子をもって知る親の恩」ということはもある。苦労苦難を経験したうえではじめて親に出会えるのではないか。

苦労の木の上に立っている親が見えてくるのは、わたしが苦労を重ねた末に見えるのである。

如来様でも同じこと。

わたしを如来にしたいと願われてナムアミダブツとなつてくださったのだから、ナムアミダブツが出来上がつたとき、私の往生も決定している。そのことを知り思ひ出すだけで充分。寝転んでいようが、昼寝していようが、わたしはすでにお慈悲のなかというのであります。

いや、そうではない。なんでもわたしが仏になろうと努力して、念佛修業修行する中でこそ、はじめ

て如來の本願のおいわれもわかりお救いに會える。我が身自身苦労せず、頭のなかで、本来親とはこんなものと決め込んでいるのは横着すぎよう。

では、本当に親を知る、如來に出会うとはどんなことでしょうか。

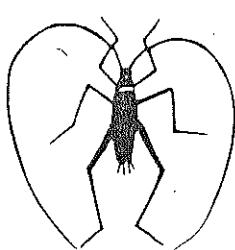
浄土真宗ではナムアミダブツのお念佛のことを「名号」「お名号」と申します。

名乗り、叫ぶということです。夕暮れても帰つてこない私を捜しにきてくれた親の呼ぶ声。苦惱煩惱のなかに浮き沈むわたしを呼び呼んでくれる如來の声が聞こえたとき、「カアチャン」と走り寄り取りすがり、ただ如來の胸に飛び込んで、ナムアミダブツとよび叫ぶよ

りありません。

あの一瞬、この一念こそ、親を知る一念一瞬でしょう。そこしかないような気がいたします。

理屈抜き、自力のはからいぬきで、なにもかも振り捨てて、一心にたのむたすけたまえと、親に会わせていただけようとおすすめくださるのが親鸞さまであり蓮如さまであつたと思ひます。



お念仏

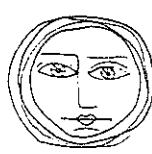
五ヶ所坂門扶推進会議会

山佳子

ありがとう

ことわざ4人が参加しました。おつとめ・焼香のけいこ、法話やビデオ。谷垣先生の楽しいゲームをほさんで楽しい一日でした。ご協力ありがとうございました。

勝林寺佛教婦人会



八月十九日

こととも研修会

たくさんの方達とゲームをしたりビデオを見てたのしかつたです。（横山くにみつ）☆ごいんげさんお元気ですか。子供研修会ありがとうございました。おつとめを教えていただいて本当にありがとうございました。お母さんといつも仏壇でおつとめをしています。（亡くなつた）おじいちゃんがよろこんでいるようなかんじがします。工作で作った人形はお父さんとお母さんの車につけてあげました。（奥地陽子）

☆ぼくはお寺に行つたのははじめてでした。ごいんげさんの話やゲームモ楽しめたです。工作で人形をつくつたのは簡単のようだつたけどむずかしかつたです。また学校へもつて行ってみんなに見せて上げます。おいしいご飯を作ってくれたおばあちゃんやおばちゃんたち、ありがとう。（石坪浩規）

☆とてもお世話をなりました。一番楽しかつたのは班対抗ゲームのあめくいでした。毎年ありがとうございます。（湯口真弓）

秋の彼岸会

九月二十六日 午後一時より

（彼岸）かの岸 苦惱の世界の彼方のお淨土を思うことです。

（淨土）とは「清淨国土の行」。国土を清淨にしようとする如來のはたらきです。

如來様が十方の國土世界を清淨にしようと願い（願）はたらき（行）かけん（名号）くださる。そのことへ思いをはこばせてもらういとなみが彼岸会でしかつたです。ありがとうございました。（横

誘い合ってお参り下さい。

